

峠の向こうは春

平和のバトンを引き継ぐランナーに！ 充実した2学期にしていこう！

いよいよ2学期となりました。夏休みの過ごし方もみなさんそれぞれだったと思います。最後の大会やコンクールを仲間とともに全力を尽くした人、さらに上位大会まで進んだ人、また学習に集中して取り組んだ人、中には学校に来て教室で学習した人もいました。さて、2学期は、高等学校の説明会等に参加して希望進路を決めていかななくてはなりません。まだ参加できていない人は、積極的に参加していきましょう。特に申込期間がスタートした段階ですぐに申し込まないといっぱいになってしまう例が多いようです。

同時に、10月には、三中祭と体育大会が予定されています。希望進路を決めることが重要なのはもちろんですが、進路決定にあたってクラスの仲間とともに困難を乗り越える関係をつくる、また進学してからさらに自分を磨いていくという意味で、二度と来ない中学校生活において、勉強以外の人として学ぶことは多いはず。三中祭や体育大会などの行事は、みなさんにその機会を与えてくれるはず。

2学期のスタートにあたって、是非紹介したい文章があります。みなさんは、5月に長崎方面に修学旅行に行きました。今年の夏、長崎市の平和祈念式典において、長崎市長さんが述べられた内容を紹介します。

核兵器廃絶を目指す原水爆禁止世界大会が初めて長崎で開かれたのは1956年。このまちに15万人もの死傷者をもたらした原子爆弾の投下から11年後のことです。被爆者の渡辺千恵子さんが会場に入ると、カメラマンたちが一斉にフラッシュを焚きました。学徒動員先の工場で16歳の時に被爆し、崩れ落ちた鉄骨の下敷きになって以来、下半身不随の渡辺さんがお母さんに抱きかかえられて入ってきたからです。すると、会場から「写真に撮るのはやめろ！」「見世物じゃないぞ！」という声が発せられ、その場は騒然となりました。

その後、演壇に上がった渡辺さんは、澄んだ声でこう言いました。

「世界の皆さん、どうぞ私を写してください。そして、二度と私をつくらないうでください。核保有国のリーダーの皆さん。この言葉に込められた魂の叫びが聴こえますか。「どんなことがあっても、核兵器を使ってはならない！」と全身全霊で訴える叫びが。

今年1月、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の核保有5か国首脳は「核戦争に勝者はいない。決して戦ってはならない」という共同声明を世界に発信しました。

(中略)

日本政府と国会議員に訴えます。

「戦争をしない」と決意した憲法を持つ国として、国際社会の中で、平時からの平和外交

を展開するリーダーシップを発揮してください。

非核三原則を持つ国として、「核共有」など核への依存を強める方向ではなく、「北東アジア非核兵器地帯」構想のように核に頼らない方向へ進む議論をこそ、先導してください。

そして唯一の戦争被爆国として、核兵器禁止条約に署名、批准し、核兵器のない世界を実現する推進力となることを求めます。

世界の皆さん。戦争の現実がテレビやソーシャルメディアを通じて、毎日、目に耳に入ってきてきます。戦火の下で、多くの人の日常が、いのちが奪われています。広島で、長崎で原子爆弾が使われたのも、戦争があったからでした。戦争はいつも私たち市民社会に暮らす人間を苦しめます。だからこそ、私たち自らが「戦争はダメだ」と声を上げることが大事です。

私たちの市民社会は、戦争の温床にも、平和の礎にもなり得ます。不信感を広め、恐怖心をおおひ、暴力で解決しようとする“戦争の文化”ではなく、信頼を広め、他者を尊重し、話し合いで解決しようとする“平和の文化”を、市民社会の中にたゆむことなく根づかせていきましょう。高校生平和大使たちの合言葉「微力だけど無力じゃない」を、平和を求める私たち一人ひとりの合言葉にしていきましょう。(後略)

そして、以下の文章は、広島市の平和祈念式典で、子ども代表の小学校6年生の二人が述べた「平和への誓い」です。

あなたにとって、大切な人は誰ですか。家族、友だち、先生。私たちには、大切な人がたくさんいます。大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。そんな当たり前の日常はとても幸せです。昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。道に転がる死体。死体で埋め尽くされた川。「水をくれ。」「水をください。」という声。大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や来、来が突然奪われました。あれから77年経ちました。今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。戦争は、昔のことではないのです。自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心もち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはず。過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。今度は私たちの番です。被爆者の声を聞き、思いを想像すること。その思いをたくさんの人に伝えること。そして、自分も周りの人も大切に、互いに助け合うこと。世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

みなさんは、これらを読んでどう考えたでしょうか。「平和への誓い」を「私たちの誓い」としたいと改めて思います。また、市長さんや子ども代表の方々が言われていることを私たちの日頃の生活に引き寄せて考えてみることも大切なのでしょうか。と言うのも、世の中には、また私たちの身近でも、自分の考えていることに対して、異論を言う人がいると感情的攻撃的に対応する人がいます。大変残念なことです。私たちの身の回りであっても、国同士の関係であっても、「自分の主張が正義、それに異論を唱える相手は許さない」という攻撃的姿勢は、強さではなく弱さでしかなく、哀れとしか言いようがありません。冷静かつ「意見の違いがあっても議論をして一致点を見いだしていく」ということを大切にしたいものです。SDGsが言われている中で、寛容さと敬意がキーワードになっています。みなさんは、残りの中学校生活で、学力を身につけることだけでなく、是非それらのことも学んでほしいと思います。

充実した2学期になることを願ってやみません。

